

第 5 回図書館本館再整備基本計画検討委員会の事前公開資料に対する市民意見

意見 1

資料 1 サービス時間の見直しと利用拡大

- ・ 図書館の開館時間を 22 時までに変えてほしい。仕事が終わって、多摩市まで帰ってくるとすでに図書館は空いておらず利用しづらい。
- ・ 土・日曜日に利用しようと思っても、活動時間が短く不便である。

意見 2

検討項目の優先順位について

1. 中央図書館でこそ実現できる充実した、貸出・レファレンス（地域資料を含む）・ハンディキャップ・児童の各サービスの内容を明確にしてほしい。
 - 参考になるのが、調布市立図書館の貸出・レファレンス・ハンディキャップ・児童の各サービスと日野市立図書館市政図書室の地域資料サービス。参考となるのは、下記資料の③④⑥と第 4 回検討委員会（4 月 21 日）の資料 6 を参照。
2. 新鮮な図書、充実した雑誌・新聞、レファレンスブック等、その他のサービスを展開するための資料（情報源）をどの程度用意するのか。
 - 多摩地域の調布、武蔵野、立川、小平、千葉県の浦安の各市立中央図書館や日野の市政図書室からどの程度の内容を整備する必要があるかはほぼ確定する。
3. 直営堅持をして組織的な運営を行うためには、想像以上の困難性と複雑性が伴うことになる。理由は、職員が各図書館に分散し、しかも勤務日時が極めて複雑であるから。
 - 調布では、中央館が 6 班（勤務時間 3 直で、週の休みが 2 直）、分館が 2 直の運営で、ものすごい数の会議（『研究』7 号 P35-39,P71 を確認のこと）や研修が行われて、はじめて組織的な運営が可能となっていることが分かる。職員には厳しい覚悟が求められる。参考となるのは、下記資料の①②⑤を参照。
4. 浦安市立中央図書館のように開架書庫と、自動貸出、自動返却、自動予約棚をどうするのか。
 - 素晴らしい「本との出会い」が大規模な図書館の最大の魅力で、大規模な書店に行っても同様の感動を経験します。自動貸出等については、メリットも多いが、実際の経費とデメリット（下記 5 で説明）も検討してほしい。
5. 多摩市の創意として、良い中央図書館をつくることを長い議論の末に決定したことを重視してほしい。
 - 資料 1 の 2、「人件費の抑制」（資料費の増額に）といった、人件費と資料費を対立させる考え方。資料 2 の 1 (2)「中央図書館後も、職員数を大きく増員はできない」とする考え方。そして資料 3 の「ICT の活用」に関する考え方。医療や学校、勿論、図書館も、良いサービスを展開するのは、結局、「人」である。まず優先すべきは、サービスを担い得る職員の確保（と養成）が必要。
6. 検討の優先順位として、基本的な良い中央図書館のサービスを展開する諸条件をまず確保した上で、「新たなサービス等」の検討を俎上に載せるのが順序である。

『図書館研究三多摩』6号、7号の内容

- ① 小池信彦 「調布市立図書館の歩みとこれから」
- ② 座間直壯 「委託問題の背景とその後の図書館運営」
- ③ 五十嵐花織 「レファレンスサービスの現状と課題」
- ④ 返田玲子 「調布市立図書館のハンディキャップサービス」
- ⑤ 山口真理子・木住野正子 「調布市立図書館の職員体制」
- ⑥ 黒沢克朗 「調布市立図書館の児童サービス」

意見3

継続して検討委員会を傍聴しての意見

1. 武蔵野市の武蔵境駅付近にある図書館では、館内にあるカフェで、夕方から10時までであったと思うが、アルコールの飲食可であった。多摩市の図書館本館でも是非、取り入れて貰いたい。駅、バス、住宅も近いので、帰りにも支障はないものと思う。図書館と分離して、営業可能だと思うのでお願いしたい。
2. 幼児、小学校低学年用の図書室と、それ以上の年齢の図書室は、ドアではなく、階に依って分離して貰いたい。
3. 各階に、カフェの設置をお願いしたい。カフェの営業団体は、市内のNPO団体を公募して各階に異なった団体が営業可能なようにお願いしたい。
4. 昨年、庁内で、“若者会議”という組織を立ち上げて議論し、一定の結論を出しまして、その中には、パルテノン多摩と中央公園への意見も提出されている。今年度は、それに基づき、実行委員会を作り、実行に移していくそうだが、その意見も今回の委員会に取り入れていくことは出来ないだろうか。同じ庁内で行っている事業ですから、そのような意見も取り入れて事業を展開してもらいたい。
5. パルテノン多摩側の件だが、パルテノン多摩で改装が行われ、設備が整ったとしても、管理、運営が現状のように、数十年も変わらぬ現状では、利用する市民にとって、利用し難い、使い勝手の悪い施設になってしまうことを危惧している。過去に例がない、マニュアルがないとか、コミセンやグリーンライブセンターのように、市民団体が改装した部分だけでも、管理、運営を担う組織体制をつくり、柔軟にしたほうが、利用者にとって、利用し易い施設になるかと思う。管理、運営は、コミセンのように市民を公募すれば可能だと思う。
6. 大学との連携について、近くのグリーンライブセンターでは、恵泉女学園大学があるが、植物関連の書物、雑誌等も蔵書していて、植物関連の相談者もいる。手始めに、同大学との連携を検討してもらいたい。場所も図書館本館、パルテノン多摩ともに隣接しているので便利ではないだろうか。
7. 駅から遠いとの意見があるが、その為に、地域にある図書館を存続したはず。図書館本館に無理して行かなくても、地域の図書館から他の図書館にある図書を検索し、取り寄せたり、図書館員に、各種の通信機器を使用して相談可能なシステムをつくれれば充分なような気がする。

意見 4

資料 1 サービス時間の見直しと利用拡大

- ・ 開館日見直し、利点だけでなく問題点をしっかり検討してほしい。
- ・ この案では関戸図書館の閉館日が月曜日となっている。月曜は祝日が多いため祝日開館が大幅に減ることになる。年によって異なるが計算してみてほしい。
- ・ 職員の負担は減るが土日祝日休みの利用者は利用できる日が減る。

意見 5

資料 1 サービス時間の見直しと利用拡大

- ・ 全館の休館日を 2 郡に分けて利用機会を増やす考え方はいいが、図書館職員全員が会議・研修・選書などの業務に参加できるよう、月 1～2 日は全館一斉の休館日（館内整理日）を設けて業務の質の向上にむけることが大事だと思う。

資料 2 職員の育成とサービスの向上、市民との連携

- ・ 限られた職員数で質の高いサービスをするには、職員一人ひとりの力をどう育成し継承していくのかが一番の課題。せっかく研修を受けても、それをどのように仕事に活かしているのか、他の職員への報告・提案はどのようにされているのか、成果が明白でない。また研修を受けても短期間で図書館以外の部署へ異動してしまうなど活かされていない。
- ・ 図書館には専門職採用の仕組みが必須である。司書有資格者を採用し、図書館で長く働き、研鑽と蓄積を積んで市民の多様なニーズに対応できる専門職集団に育てていく。それには新館ができてからでは遅く、今から準備して体制を整えることが喫緊の課題である。

意見 6

資料 3 ICT 活用による新たなサービスの創出

1. 館内の Wi-Fi の整備は、新たに整備される本館だけでなく、地域館でも整備してほしい。
2. 有料のデータベースのアクセスはできたら、全ての地域館からでも利用できるようにしてほしい。
3. 多摩市の書籍の検索・予約などは今でもインターネットでできるが、書籍に関するデータをオープンデータにして、外部提供インタフェース (API) を提供してほしい。例えば、国会図書館は API を提供している (<http://www.ndl.go.jp/jp/use/api/index.html>)。利用者が API を使って、自分にあったアプリなどを書けると便利なことが多いと思う。